

磐城時報

日刊 第六十夕
編輯兼發行所 平町 弘成
印刷所 磐城時報社
福島縣石城郡平町 磐城時報社
一部金銀紙一ヶ月金銀紙
廣告料 行字詰金五十銭
▲日刊 (日曜、祭日) 休刊

第三校増築問題で 馬目雅議員の質問

過剰金徴収の意ありや 町當局に詰め寄る

平町會は十六日午後一時から開いたが本紙が既報した荒川(邊)石山兩町議が第三小學校増築に伴ふ建具の下請負をなした点については馬目(武)議員が痛烈な攻撃の演説を試みた。更に馬目(雅)議員は第三校工事が契約期間を超過して未だ竣工せぬ間に左の如き質問をなした。

第三校増築工事は八月二十五日まで完成すべき契約であったにも拘はらず二十余日を超過した今日尚ほ竣工が提出されず検査も行はれていない。右に對し青沼町長は九月五日までの延期は工事の事情で承認したもので、その後は委員会の注文により工事の模様替えをしたため遅れた理由なしに延期は承認が出来るものである。と答辯した。

皇國の精神を復興し 國防認識を高めよ

あす國防講演會で 平町民が決議

平國防研究會主催平消防組、平前九時から平第三小學校講堂に青年團、平女子青年團、その他開き凱旋將軍第三旅團長長谷部後援の國防講演會は明十七日午少將の講演があるが、講演後左

の如き決議をなす筈である。

決議

一、世局の重大性を認識し聯盟脱退に關する詔書の聖旨を奉體し協力一致難局を打開して帝國々是の遂行貫徹に邁進せん事を期す
二、現下帝國の情勢に鑑み皇國精神を復興し國防に關する認識を高めて速に帝國々防の完備を期す
九月十七日
平國防研究會

多數軍人を出した家に 表彰状傳達

一家から三名以上の軍人を出した七日から三日間警察署會議室で表彰された旨過般發表された。十九日午前十時から平町役授與式を舉行する由である。尚ほ三日間即賣を行ふこと。

滿洲で殉職した 松本君の紀念碑

四倉町在郷軍人分會では昭和六年九月滿洲守備隊第六十七聯隊第六中隊松本佐一郎君が鐵道指風雨に遭つた朝鮮慶尙南道全羅南道方面に對する義捐金百圓を二十五日頃まで取纏める事になつた。

梨品評會

石城郡果樹組合聯合會主催の梨品評會は十

鶏卵相場騰る 養鶏者が廢業したため

平町地方に於ける鶏卵相場は本無資格者などに誤つて名簿に登録年春以來高値を續け八月に入つてからは一貫二圓七十銭前後で昨年同様に比較すると約二倍の高値を示してゐるが、之は昨年高鶏卵相場が品過剰から下落したのち、養鶏業者が廢業した者多く、その他の業者も飼養数を減じたため本年は品不足を告げ奔騰することとなつた。

石城産業組合 内容充實

平隔離病舎に 感謝の寄附

双葉郡浪江町樋渡張上(三八)は過般平町で傳染病に罹り隔離病舎に收容され治療の結果全快して歸郷したが、病院で厄介になつたのに感謝し現金二十圓と柱時計を平隔離病舎に寄附した。

四倉校落成式

小學校では二十六日午前十時より落成式を舉行するが児童作品の展覽會を催はほす。

文書偽造 書記送檢

石城郡好問村役場書記金生福正(五一)は去る八月來執行された同村水利組合委員の選舉名簿を改竄したとの説がある。平署では十五日金生氏を召喚取調べたところ組合選舉有権者名簿中同村上好問野きんが未成年で

四倉町の賊

町東部電力變電所諸戸松氏宅に十四日午後十一時頃賊忍び入り金品物色中家人に目を喰され一物も得ず逃走した。

松本君を憶ふ

三年忌を迎へて
第六中隊一戰友
「俺は此の短かい生涯をば綺麗に死んで行きたい……」
とは我が戰友故松本佐一郎君が常々自分達に云つた言葉である。嗚呼！忘れもせぬ九月十二日其の日の朝であつた。聯隊砲術隊の一人として来るべき軍旗祭當日の舞臺に乗り出すべき彼は榮譽と喜びとを顔一ぱいに浮べながら机にもたれて何か一

生懸命書いていた。……
「お、松本？ 何を書くんだ」
「お、愈々後四十日で滿期なので家から軍服を送つてやるから着て歸れと云つて来たので頼むよ、實に親は有難いな」などと今更親の恩を感じた如く、松本は他日健全なる心と健全なる身體とを土産に二年前に出たなつかしの故郷に錦を飾るべく喜々々々として親元に送る手紙を書いて居た。見れば劍術をやつてか襦袢は水を流した様に濡れて居た。彼は温順な性質の持主であつた。非常に武技に上達し劍術に掛ける事が嫌ひな人間であつた。其の劍術には鬼の様な人でも班内に於ては人物云ひ一つした事のない初年兵などが頭髪など長くして居るを見つて次第列つてくれ、顔まで皆なすつてくれた。初年兵等一つつた事は無い。そして演習と勤務は精勤であり實に他の模範であり、真に中隊内の崇敬者であつた。あへなくも君が悲しき最後の途に泣いた時、誰れ一人として悲しみの涙に泣かぬ者はなかつた。特に君は喇叭手として演習の野に行軍の先頭に吹く喇叭の音は我等の心を勇躍させ、陣の上に中隊の志氣を鼓舞し、向ふ處敵なくさせずんばおこなかつた。嗚呼松本君？
君の死は武夫の死として真に君の劍尖の下に花と散つたのだ。然も死して尚も劍を捨てざるは實に何たる天晴れの事ではなにか。朝な夕なに含窓に聞く喇叭の音は君が吹く喇叭の聲に擬はれ生前の君の面影が偲ばれて轉々惜別の念に堪へない。戰の火蓋は切られ今や滿蒙の風雲急を告げ、間、陣方面も亦事態の重大化を思はしむるものがある時、有爲なる君を失へるは選手の一人として来るべき軍旗祭當日の舞臺に乗り出すべき彼は榮譽と喜びとを顔一ぱいに浮べながら机にもたれて何か一あらう。(終り)

人絹反物を 欺いて賣る

平署で返金する
東京市深川區古石田町一當時住
所不定無北村龜吉(三三)は數年
前平郵便局前で人絹反物を絹物
と欺いて賣つてゐたので平署に
檢舉されたが、一圓位の物を五
六圓に賣つた向きもあり被害者
は平署に申出れば金は返す由
である。

墜落して 雑夫重傷

湯本町矢吹製材所雑夫竹藤文治
郎(六五)は去る十一午前九時頃
材運搬中七尺の高所から墜落
腰部に重傷を負つたので十六日
平署を通じて工場法による扶助
を願ひ出た。

登記一覽

▲平町二丁目二六
合資會社鍋嘉商店
目的 酒類、味噌、醬油、罐
詰、飲料水販賣、代表社員星
野久八
社員、出資種類、出資者
電話什器七九一、一〇錢 商品
一〇五二圓五七錢、債權七口
四一七〇圓
二七三七三三錢 平町二丁目
二六星野久八、七五〇圓星野
チヨ、五〇〇圓星野嘉久治、
五〇〇圓星野三郎、五〇〇圓
東京市牛込區東城元町二佐藤
慶雄。
▲播磨小路三〇
合名會社益開屋商店
目的 不動産買賣並に貸貸借
金貸付業、代表社員阿部政
右衛門
出資者 播磨小路三〇番地一
八〇〇圓阿部政右衛門、五〇
〇圓阿部ト、七〇〇圓阿部
卓造

▲合名會社田邊商店
目的 諸機械鋼鐵材料賣買及
仲介及電機品一般賣買其他
出資者 一五〇〇圓平町白銀
町十四田邊忠造、彌宜町十一
四〇〇圓山田親義、八〇〇圓
白銀町十四田邊正二、三〇〇圓
園田町二五番吉田弘

▲合資會社織田商店
平町南町五五
目的 自轉車販賣、修繕
出資者 電話什器一〇三七圓
三〇錢、商品一三二一圓三〇
錢 平町南町五五織田安次郎、
一〇〇〇圓織田實松、六〇〇圓
園田田邊太郎、五〇〇圓織田
末松、三〇〇圓園田タマ

▲平町新川町十九
合資會社諸橋吳服店
出資者 新川町十九諸橋正次
三五〇〇圓諸橋國松、五〇〇圓
園田田邊四郎、五〇〇圓諸橋サ
タ、五〇〇圓園田トク

平町人事

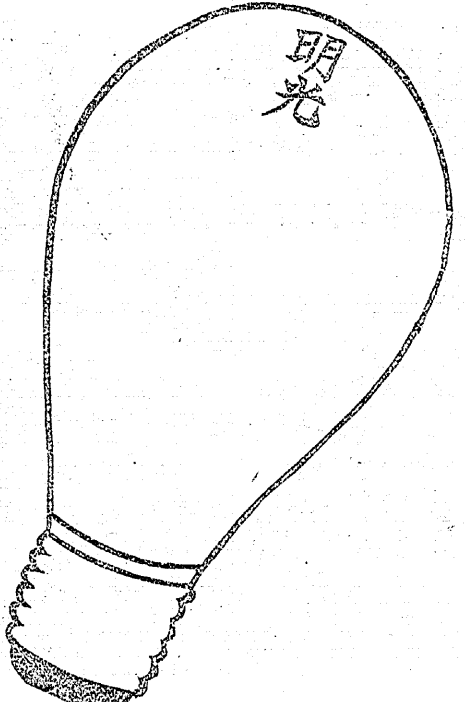
▲出生
平町播磨小路二九五橋友之介
三女登代子、鎌田町三二荒木
勝彦三女正子
▲買家案内
○長橋町十二階建五間水道付
○南町五一、二階建三間
(以上五丁目自金屋商店)
○平町田町野崎自動車部跡(賣却も御相談に應ず)家主平
驛前野崎喜八郎
○田町マルカ書店跡
家主加藤正保
○平町古銀治町三六、六、八
二番 安關、水道、井戸附、

勤八向、家主平町十五町目三
崎金作
▲求人
▲女中
○十五六歳(平警察署官舎小
林來盛)
○二十歳前後月五圓(平町長
橋町大峰秀吉)
▲車夫
○四十歳以下(平町田町須藤
鶴之助)
▲出前持
○十五六歳位(平町四町目十
一屋)
▲雑夫
○四十歳以下(鎌田町金成國
雅)
○二十歳乃至三十歳、月六圓
十圓(四倉町仲町佐藤鶴松)
▲牛乳配達
○十七八歳位月七、八圓(平
町鎌田町岡田牛乳舎)
▲求職
▲事務員
○警備佐官二年修、二六歳、
高久村下高久字八幡志賀秀雄
○中學三年修、二十七才、茨
城縣久慈郡譽田村上大門五七
七黒羽貞三
▲雑夫
○等四修、内郷村竹の内三二
島野長松

三葉印刷所

平町仲町・電話一九三番

ガス入電球ノ値下ゲニ 次々又値下ゲ



十燭以下十二錢……五十燭マデ十八錢
—(御電話ガアレバ届ケマス)—
平三 **大谷時計病院**
眼鏡科
電話十九番

金銀高價買入

各國：時計：眼鏡：貴金屬
—(御修繕は専門の當店へ)—
根本時計店
平二 電話六〇七番

産科 婦人科

院長 **木村寅次郎**

外科

醫學博士 **内木宗八**

藥局

藥劑師 **立番彌一**

平町新川町十九
入院隨意
病室完備
木村病院
電話一六四番

吸入用酸素

純度 99%

●寫眞
●秤ノ取緒・錘系・修復致シマス
●材料一式

關内藥局

電話四〇番

腸胃病性

夜間

腸胃科

胃腸病科

性病科

花柳病科
性病科
皮膚病科
婦人科

門專

院醫科性胃腸村松
(番七〇一電町南町平)

消費節約

本位家庭染料
質品

みゆが染

平町一丁目
特約店 **大平や藥店**
電話四六二番

平看護婦會

會長 清野キヨ
平町字南町 電話三〇七番
看護婦派出の需めに應じます